

1 現状

- ・大井川鐵道本線については、令和4年9月の台風15号による被災により、全線が不通となったが、その後復旧が進み、令和5年10月1日現在、全線39.5kmのうち金谷駅から川根温泉笹間渡駅までの20kmが復旧している。
- ・不通区間については、町営バスにより代替している。
- ・川根温泉笹間渡駅から千頭駅までの19.5km区間の運行再開には、約22億円（災害復旧で約5億円、老朽化したトンネル等の機能回復で約17億円）が必要である。
- ・大井川鐵道の利用者は約8割が定期外で、近年減少傾向であったところに、新型コロナの影響を受けてさらに利用者が減少し、経営状況が悪化している中で、台風15号による被災が重なり、自力での復旧等が困難な状況にある。
- ・川根本町では観光産業を中心に影響が生じている。

2 課題

運行再開について検証したところ、以下の課題が明らかになった

(1) 今後の事業継続のあり方

- ・バスとの役割分担（日常生活・観光）など、沿線の公共交通の持続可能なあり方

(2) 費用・体制等

- ・運行再開に必要な費用の調達
- ・鉄道施設以外の隣接した斜面や河川等の災害発生源の対策

3 今後の方向性

沿線地域における大井川鐵道の観光資源としての重要性や地元住民等からの熱い期待、そして大井川鐵道の運行継続への強い意気込み等を踏まえ、早期の運行再開を目指した検討を継続する

4 取組内容

(1) 今後の事業継続のあり方検討

- ・関係者の役割分担、地域公共交通としての位置付けの検討（バスと大井川鐵道の運行再開後の役割整理など、沿線における公共交通のあり方の整理）
- ・大井川鐵道がもたらす経済波及効果（広域的・限定的）等の検証

(2) 費用・体制等の確保

- ・費用の確保（費用の負担調整、財源確保のための住民を巻き込んだクラウドファンディングや企業版ふるさと納税、利用促進策等の実施等）についてできるだけ早期に調整
- ・災害復旧、機能回復、防災改良の実施計画の調整
- ・鉄道施設に隣接した斜面や河川等への災害発生源対策の調整